



ORIENTEERING JAPAN

JAPAN

Navigation across Country

'95 / 12

1995年 [平成7年] 12月10日発行

(毎月1回10日発行)

第12巻第12号通巻第149号

昭和63年6月24日第三種郵便物認可

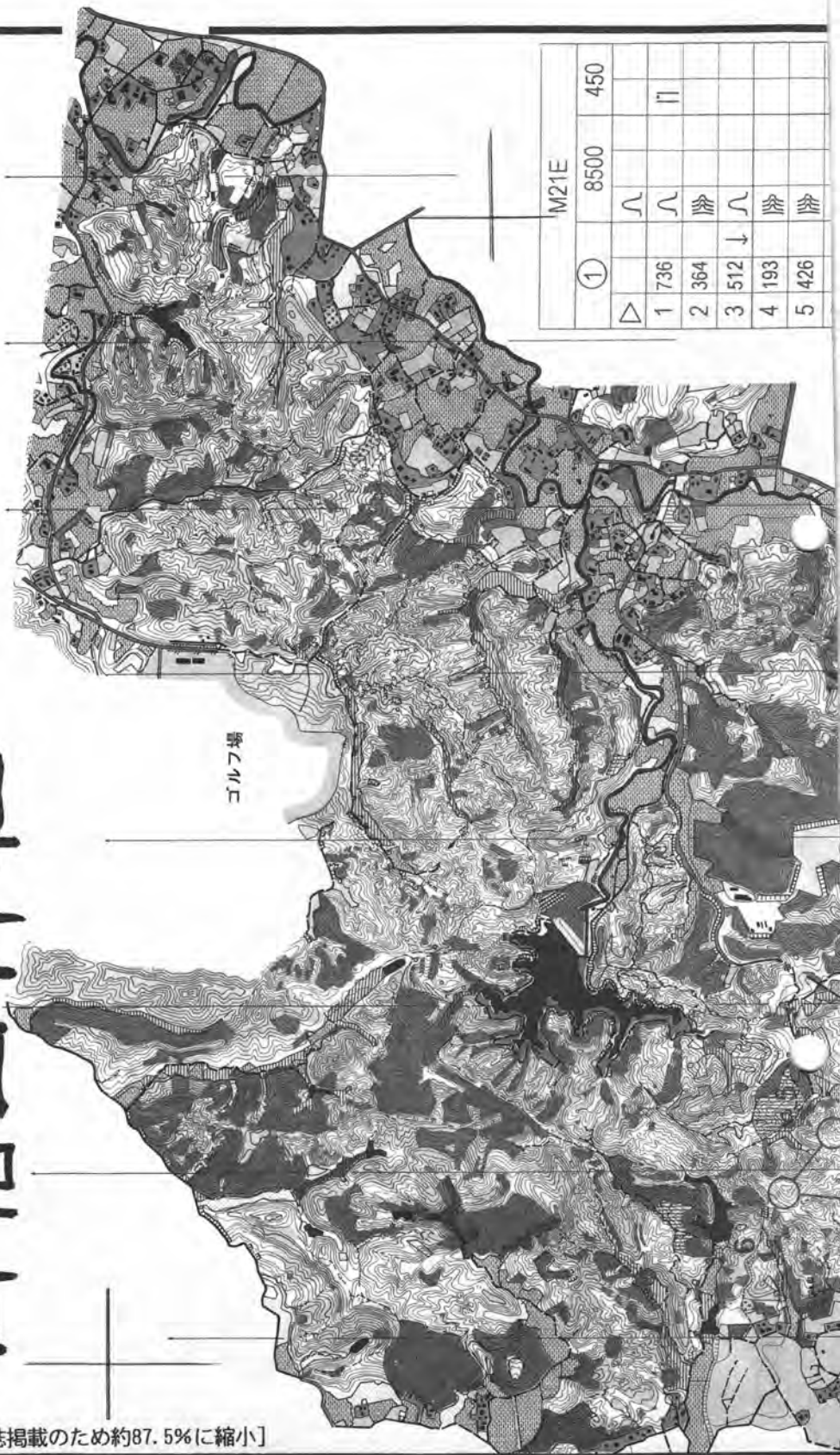


創立20周年記念第17回千葉大学オリエンテーリング大会

1995. 11. 12 (日)

千葉県夷隅郡御宿町・勝浦市

御宿山神社



| | | M21E | |
|---|-------|------|-----|
| ① | | 8500 | 450 |
| △ | | ハ | |
| 1 | 736 | ハ | ハ |
| 2 | 364 | ハ | |
| 3 | 512 ↓ | ハ | |
| 4 | 193 | ハ | |
| 5 | 426 | ハ | |

[本誌掲載のため約87.5%に縮小]



95/12月号・No.149 目次



| | |
|--|---------|
| ＝ 投稿 ＝ | … 4-7 |
| ・ 「国際スキーオリエンテーリング大会」 最新情報 <第2回> | 元木 悟 |
| ＝ ショートインカレ95 ＝ | … 8-13 |
| ・ 第3回日本学生 ショートオリエンテーリング選手権大会 写真：岩出 雅人 文：木保 順 | |
| ＝ SQUAD REPORT ＝ | … 14-15 |
| SQUAD 広報担当：桐田 幸宏 | |
| ・ 95年度エリートポイント中間報告 | |
| ＝ 全国PC愛好会のページ ＝ | … 16-17 |
| ・ パーマネントコース りぼへと | 大高 竜亮 |
| ＝ お知らせのページ ＝ | … 18 |
| ・ 長野県オリエンテーリング協会の 今後のビッグ企画 | 元木 悟 |
| ＝ クラブ機関紙から ＝ | … 19 |
| ・ 第37回健康体力づくり運動推進全国大会広島大会 オリエンテーリング大会を開催 広島OLC 『みくまり』より | |



< EDITOR'S COLUMN >

永年にわたるご愛読者のみなさま、編集・発行に並々ならないご協力をいただいている皆様のお陰をもちまして、次号は150号という記念発行となる。経済的な問題、それにかかわる人手の問題、さらに関連して専属常勤スタッフがいないことによる記事の不足と、いろいろな問題をかかえながらも、「いつも遅い」というお叱りを受けながらも、何とか続いている。

さて、その150号から先の「O-JAPAN」であるが、ちょうど来年は「2000年まであと5年」というカウントダウンが始まる年でもある。今までのようにただ漫然と発行し続けるだけではなく、21世紀に向けて今後のアジアや日本のオリエンテーリング活動に少しでも貢献できるような情報誌でなければならないと感じています。もちろん、現状はオリエンテーリング界の中心部からは大分ずれた位置、というよりむしろアウトサイダーであるので、それなりの進み方にはなるが、側面的にせよ今までより少し深く入り込んだ企画や行動を考えている。

私が勤務先をリタイアするまではちょっと無理だろうと思われるものも含めて例を挙げると、前からお約束している「オリエンテーリング入門」の連載、オリエンテーリングへのお誘いのための簡単なパンフレットの作成、コントロールカードやそのフィンガーホルダーの作製販売、世界選手権やワールドカップへの選手派遣を援助するチャリティ大会（持ち回りOJカップ）の継続開催、そしてインターネットへのホームページ参入などである。他にも、月に一回程度、近くの適当な大会を利用させてもらい初心者教室の開催（単なるオリエンテーリング競技の方法や地図とコンパスだけではなく、先ず参加の仕方やマナーの説明、更に後の反省や復習、大会後のOLへの入り込み方＝クラブ紹介や用具の購入相談なども含めて）もアイディアの中に入っている。開催案内は国内最大の通信ネットであるNifty-Serveのフォーラムや新聞の地域情報欄などを利用したい。

何れ今後も、皆様のお力を多々お借りしたいと思います。

< 編集責任者・田口 肇 >

■今月の表紙：10月22日、栃木県今上市で開催された第3回日本学生ショートオリエンテーリング大会＝ショートインカレで、DEクラス優勝の山本康世選手（国際基督教大学4年）のゴール。

〔撮影：岩出 雅人氏〕

■今月の地図：11月11・12日、千葉県御宿町で開催された、第17回千葉大学オリエンテーリング大会の2日目M21Eコース図。

〔提供：三好 良子さん〕



ショート・インカレで挨拶するIOF事務局長
レンナルト・レヴィン(Lennart Levin)氏

— 1998年 長野オリンピック冬季競技大会 文化・芸術祭 —

「国際スキーオリエンテーリング大会」最新情報 1998.1.24 - 1.31 第2回

長野県オリエンテーリング協会
理事長 元木 悟

今回は、オリエンテーリング（以下、OL）の発展と振興を目的に、長野オリンピック冬季競技大会（以下、長野オリンピック）に併せて計画している「1998年 長野オリンピック冬季競技大会 文化・芸術祭 国際スキーOL大会」の準備状況を、過去のO-JAPANを振り返りながら、本大会招致のエピソードと、大会準備の最新情報をお伝えした。今回は「国際スキーOL大会」招致活動の経過と、大会開催の意義、開催までのスケジュールを報告する。

[なぜ、スキーOLなのか？]

1992年、「冬季オリンピックとスキーOL」の話題が途絶えた後、再度、スキーOLの話題が持ち上がったのは1994年7月の関東甲信越ブロックOL推進会議の席上であった。山梨県OL協会の一木副会長より「長野オリンピックに併せて、スキーOL大会等のイベントを開催したらどうか」との提案があり、協議の結果、全会一致で一木氏の提案を推進する方向で決定されたことからである。その後、東京都OL協会の伊藤会長に、長野オリンピック冬季競技大会組織委員会（以下、NAOC）への仲介をお願いし、以後、長野県OL協会（以下、長野県協会）がNAOCとの交渉にあたり、現在に至っている。

「国際スキーOL大会」を計画している菅平高原は、上信越高原国立公園内にある標高2,207mの根子岳の裾野にひろがる高原リゾートで、長野市の東に位置し、長野オリンピックのメイン会場から最も近いスキーリゾートでもある。菅平高原では社団法人日本OL協会（以下、JOA）公認大会の第19回朝日新聞社OL大会（以下、朝日大会）開催が長野県協会との間で既に内定していたが、1994年12月17日、朝日新聞社宣伝部より長野県協会に、朝日大会は第17回の埼玉大会で終了すると通告された。菅平高原では予定していた朝日大会に代わり、長野オリンピックの100日前イベントとしてフットOLの公認大会を開催する方向で長野県協会と調整していた。ちょうどその時期、伊藤会長よりスキーOLのNAOCとの交渉権が長野県協会に引き継がれたのである。長野県協会ではスキーOL大会は長野オリンピックでクロスカントリースキーが行われる北安曇郡白馬村を会場に行うのが望ましいと考えていたが、菅平高原よりスキーOL大会開催の可能性を探りたいとの要望をいただき、菅平高原も候補地の一つにすることを決めた。長野県協会では「長野県スキーOL大会」を11回開催し、菅平高原でも過去にスキーOLを開催した経緯があった。スキーOLに関する一連の調査研究の結果、菅平高原開催が良いとの判断から、フットOLの公認大会開催とあわせ、「国際スキーOL大会」開催についても菅平高原開催で検討していくことに決まった。「国際スキーOL大会」に関するNAOCとの交渉には、宮澤裕二氏（菅平高原OLクラブ会長）と長野県協会が中心となっており、地元の小県郡真田町、菅平高原観光協会、菅平牧場畜産農業組合、長野県協会等との話し合いの中から、運営面、技術面、財政面等から大会開催の可能性を十分に検討し、「国際スキーOL大会」を正式に招致することを決めた。長野県協会にとっては国際大会開催は初めてであり、運営面、技術面で多くの不安を抱えるものの、長野オリンピックを通じて、OLを世界にアピールできるまたとない機会と位置づけ、国際大会招致に向け、最大限の努力をすることを地元で確約した。長野県協会が「国際スキーOL大会」の受け入れを決めた背景には、一つは地元の菅平高原が強く開催を希望したことにある。OLの国内ビッグ大会招致に長野県内では最も熱心に取り組みながら、予定されていた朝日大会が中止となり、国内大会開催の魅力が薄れた菅平高原が、「国際スキーOL大会」開催に名乗りを上げたのは時の流れでもあった。地元の不満解消にもなるし、菅平高原の魅力アップにもつながられる。また、スキーOLはありのままの自然を活かす競技のため、環境に優しいスポーツと考えられる。「国際スキーOL大会」の開催を計画しているのは菅平牧場を中心とした広大なエリアで、長野市へは車でわずか40分の場所である。オリンピック会場に最も近いスキー場でありながら、長野オリンピックの直接の競技会場とならず、下高井郡山ノ内町の志賀高原、北安曇郡白馬村といった後発スキー場の活況に比べ、遅れをとった感があった。「国際スキーOL大会」を決定づけたのは、本大会開催は、しにせスキー場である

菅平高原の活性化役に適するとの判断（1995年2月23日、長野県協会と菅平高原観光協会との合同会議から）であった。菅平高原観光協会の試算では7000万円以上となる財政問題も、「国際スキーOL大会」が長野オリンピックの文化・芸術祭のプログラム（以下、文化プログラム）に組み込まれ、全世界にアピールできればという条件付きで、地元が相応の負担を約束して下さった。

長野オリンピックにあわせて「国際スキーOL大会」を開催することは、地元の菅平高原、長野県協会だけでなく、今後OL界全体の発展のためにプラスになるという共通認識は各方面に広がっている。実際に国際大会を盛り上げ、どう地域の活性化につなげていけるのか。今後、直面する現地の課題も多い。

[国際スキーOL大会決定は間近!]

前回の報告どおり、「国際スキーOL大会」の企画書を1995年7月17日にNAOCへ提出し、後はNAOCの結果待ちの状態になっている。NAOCによると、国際オリンピック委員会（以下、IOC）による長野オリンピック文化プログラムの最終決定は1996年8月で、正式決定されれば、長野オリンピック文化プログラムとして全世界にアピールされる。しかし、1995年中に文化プログラムの基準作りが、以下に記すメンバーで構成される文化プログラム専門委員会によって作成されるため、1996年1月には内々定が出るという。

長野オリンピックの開閉会式の演出や文化プログラムの構成を担当するプロデューサーチームの顔ぶれは、1995年9月9日までに固まり、総合プロデューサーに浅利慶太氏（劇団四季代表）、アドバイザーに小沢征爾氏（サイトウキネンフェスティバル指揮者）、映像監督に萩元晴彦氏（テレビ製作会社代表）、イメージ監督に新井 満氏（作家）、音楽プロデューサー（協力プロデューサー）に永島達司氏、梶本尚靖氏、田辺昭知氏が選出された。NAOCとの連絡調整を行うアシスタント・プロデューサーには町田 裕氏（昭和音楽大学生涯学習センター参与）、地元調整を行うアシスタント・プロデューサーには長野県内の文化事情に詳しい尾崎明子氏（オフィス・蘭代表）があたる。また、今回我々と直接関係があると考えられる地元文化プログラム担当監督には、1993年に開催され、大成功をおさめた信州博覧会で催事プロデューサーを務めた島崎 裕氏（信越放送事業局長）が選出された。彼が中心となって、文化プログラムの準備が進められる。浅利総合プロデューサーは、「文化プログラムを競技に負けない内容に充実したい。競技会場の無い南信を含め、長野県全域で積極的に展開したい」と語る。

NAOCとの交渉もいよいよ大詰めである。「国際スキーOL大会」が文化プログラムの一つとして組み込まれるよう、最後の交渉にあたりたい。

[オリンピック・スノーボード決定]

長野オリンピックの最新情報の一つを紹介したい。スノーボードは比較的新しいスポーツである。NAOCは1995年11月17日、東京都内で組織委員会会議を開き、スノーボードの1998年長野大会実施に同意すると決めた。種目は回転、ハーフパイプ各男女4種目である。1995年12月に北佐久軽井沢町で開くIOC理事会で正式に決める。これで長野オリンピックのプログラムは7競技68種目となる。小林事務総長は「スノーボードは長野オリンピックの目玉の一つになる。実施を大会全体の成功につなげたい」とし、西村直吉事務次長は「スノーボードは近年、若者を中心に急激に人気広がっている。テレビの高視聴率も見込まれ、世界の人の関心を集めてオリンピック運動の拡大に寄与したい」と語った。慎重な態度を続けてきたNAOCが、スノーボード実施を積極的に「活用」しようと、方向転換を決めた瞬間であった。

IOFでは2002年のアメリカのソルトレークシティ冬季オリンピック競技大会での正式採用を目標に、オリンピック冬季競技大会でのスキーOL開催を積極的に進めていく方針であるが、一足先に採用になった新しい競技として、スノーボードの今後の経過を注目したい。

[IOF会長・事務局長・スキーOL委員会委員長来日]

1995年10月19～22日にIOF会長 Ms. Sue Harvey、IOF事務局長 Mr. Lennart Levin、IOFスキーOL委員会委員長 Mr. Veli-Markku Korteniemi が来日し、長野県小県郡真田町の菅平高原、栃木県日光市の第3回日本学生ショートOL選手権大会を視察した。菅平高原観光協会は10月20日夜、ホテル白樺荘

にて歓迎夕食会を開催し、IOFは10月21日には「国際スキーOL大会」開催のために地元と協議を行い、その後、「国際スキーOL大会」の競技エリアの視察を行った。彼女らは菅平高原について、国際大会開催に最適であるとの感想を述べ、1998年の「国際スキーOL大会」成功のための最大限の協力を確約し、将来のベテランワールドカップと世界選手権の日本での開催のアドバイスを下さった。1995年11月9日、Mr. Lennart Levin から宮澤氏に送られてきたFAXの中で、氏は「(菅平高原の) 競技エリアを視察して、スキーOLイベントに最適だと確信した。ホテル白樺荘の位置は理想的で、役員や選手の宿泊施設としてとても適している。最も重要なことは、(地元の菅平高原) 観光協会のオリンピック文化プログラムのイベントにしたいという積極的な姿勢で、我々はとても安心した。私はソウルでのGAISFのミーティングでNAOCのメンバーと話をする機会を持った。彼らはスキーOLをプログラムの一部にすることに對して非常に積極的で、最終的な決定は1996年8月になると語った。いい返事がもらえるように、決定までにIOFがすべきだと思うことがあったら、IOFまで(例えば、IOCに手紙を書くなど)。」

[大会開催までのスケジュールと問題点]

以下は、国際スキーOL大会招致委員会が作成した大会開催までのスケジュールである。

- 1995年秋 ○地図調査。(7人)
- 1996年1月 ●NAOCから内定が出る。
- 1996年2月 ○実行委員会を組織。
 - ◇スキーOL世界選手権(ノルウェー リレハンメル)へ選手団派遣。
 - 世界選手権や他のスキーOLイベントの視察。IOF訪問。(6~10人)
 - 地図作成指導者の来日。
- 1996年8月 ●NAOCの正式決定。以後、文化プログラムとして全世界にアピールされる。
- 1996年夏 ○地図調査。(7人)
- 1996年秋 ○トレーニング地図完成。第19回長野県OL大会の開催。
 - ブリテン1を送付。
 - 準備状況の指導を受ける。
- 1997年冬 ○指導を受けながらのコースプランニング。
 - 運営役員のヨーロッパ派遣。
 - コースプランニング指導者、コントローラの来日(第1回)。
 - IOFが日本で講習会を開催。
 - ◇日本チームがヨーロッパでトレーニングキャンプを行う。
- 1997年2月 ○イベント。
- 1997年4月 ○ブリテン2を送付。
- 1997年夏 ○地図調査。(3人)
- 1997年秋 ○イベント2ヶ月前。申し込み締切。
 - コースプランニング指導者、コントローラの来日(第2回)。
 - 全ての地図完成。第20回長野県OL大会の開催。
- 1997年12月 ◇日本チームがヨーロッパでトレーニングキャンプを行う。
- 1998年1月 ○コースプランニング指導者、コントローラの来日(第3回)。
- 国際スキーOL大会の開催。
- IOFによる文化プログラムとしてのスキーOLの説明。

①地図作成について

日本で全て作成可能である。1996年11月2~4日に開催する「第19回長野県OL大会(第4回日本学生OL選手権ショートディスタンス競技大会併設)」及び1997年11月1~3日に開催する「JOA公認 第20回記念長野県OL2日間大会(予定)(長野オリンピックの100日前に行うNAOC後援の大会)」で使用するフットOL用地図をスキーOL用に作り直す。現在、高嶋和宏氏(東北大学大学院)の航空図化原図を基に地図調査が行われ、1996年の大会地図の8割で1次調査が終了している。スキーOL用としては

今シーズン中に雪の状態をチェックする。菅平高原ではパウダースノーとなるので、地図表記、コースプランニングの対応が必要である。

②スキーOL世界選手権とのバッティングについて

1998年1月下旬、オーストリアにおいて、「スキーOL世界選手権」の開催が予定されている。このたび来日したIOFとの話し合いの中で、IOFにとっては長野オリンピック期間中に開催されるスキーOLイベントのほうが最優先なので、オーストリアのオーガナイザーにスキーOL世界選手権の日程を動かさないか働きかける約束をしてくれた。この件については、近々結論が出ると思われる。しかし、たとえスキーOL世界選手権の日程を動かすことが出来ない場合でも、IOFは菅平高原で開催される「国際スキーOL大会」にできる限りトップの選手、必要な役員、その他重要な人物を集めると確約してくれた。

③スキー連盟との二重構造の解消

今回オリンピック種目に正式に決まったスノーボードも同様の問題を抱えているが、スキーOLの場合、スキー連盟との関係をどうするか検討する必要がある。スキーは国際スキー連盟(FIS)－全日本スキー連盟(SAJ)－長野県スキー連盟、OLはIOF－JOA－長野県協会という関係が成立しており、スムーズな大会運営、より高い競技レベルの実現には、二重構造の解消が必要となる。NAOCより内々定をいただいたら、スキー連盟との交渉に入りたい。

【世界のスキーOL】 IOFとのミーティングから

最後に今後、スキーOLを始められる皆さんに世界のスキーOLについて情報を提供したい。1995年10月21日、菅平高原国際リゾートセンターで開催されたIOFと菅平高原観光協会のミーティングの中で世界のスキーOLについて、IOFスキーOL委員会委員長 Mr. Veli-Markku Korteniemi にお話しいただいた。スキーOLの競技人口は競技者としては世界で約30000人。最も競技者人口が多いのはロシアで約10000人、次いでフィンランド、ノルウェーの約5000人。国際スキーOL大会でメダルを狙えるのは10ヶ国程度である。フィンランドではスキーOLの競技者としての登録者は5000名いるので、愛好者や1回以上スキーOLを行った人ならばその2～3倍はいると考えられる。

スキーOL大会は3大陸(ヨーロッパ、北アメリカ、オーストラリア)で開催されており、競技者のいる国は35ヶ国程度である。ちなみに冬季オリンピックの正式種目になるためには3大陸25ヶ国で実施されていることが条件である。フィンランドではスキーOL大会が年に何度か開かれ、参加者は500～1000名程度である。大きい大会では1500名程度が参加する。また、東欧やロシアではフィンランドより大きい大会も開催されている。1997年のスキーOLワールドカップはスウェーデン、チェコ、オーストリア、ロシアで、1998年のスキーOL世界選手権はオーストリアで開催される。

今後交流が盛んになるとと思われるクロスカントリースキーとのコミュニケーションについては、北欧ではフットOLとスキーOLの両方できる選手が多く、スキーOLはスキーの力が重要なため、クロスカントリースキーの選手と一緒にトレーニングセンターで練習している。従ってクロスカントリースキーヤーとはかなり密着している。フットOLからスキーOLに転向するにはかなりのトレーニングを要するが、クロスカントリースキーヤーがスキーOLを行うのは簡単であり、実際そういう選手も多い。日本もクロスカントリースキーの選手に宣伝して強化すれば良いとご助言いただいた。

「国際スキーOL大会」は私たちが描いた大きな夢。しかも日本のOL界が変わっていくかも知れない大きな大きな夢である。この夢を現実にするために、我々はそれぞれの立場で頑張っている。私たちがやりたいことはOLをやっている誰もが「OLをやって良かった」と言える環境作りである。今後、「国際スキーOL大会」の実現のために、積極的に挑戦していきたい。次回は国内のスキーOLの普及について、日本スキーOL研究会会長の武石雄市氏に情報を提供していただく。

「1998年 長野オリンピック冬季競技大会 文化・芸術祭 国際スキーOL大会」の開催が正式に決定し、実行委員会を組織する場面になったら、皆さんに協力をお願いします。その時は、実行委員会に参加して下さい。OLの発展と振興のために皆さんの力が是非とも必要です。

(1995年11月23日)

ショートインカレ '95

—第3回日本学生ショートオリエンテーリング選手権大会—

取材 岩出雅人(写真)
木俣 順(記事)

復活のOLK!! 男子大西(東京大4)、女子山本(国際基督教大4)が優勝

去る10月22日、栃木県今市市において第3回日本学生ショートオリエンテーリング選手権大会(ショートインカレ)が開催された。ショートインカレも3回目を数え、秋の選手権、シーズン初頭のビックイベントとして学生の間定着してきた感がある。スリリングな展開が売りであるショートインカレであるが今年もその名の通りの展開を見せ、男子は大西淳一選手(東京大4)、女子は山本康世選手(国際基督教大4)が優勝した。また、東大OLK勢が入賞者12人中5人を数え、近年東北大等に押さえられていたOLKの復活を感じさせる結果となった。

—レース前夜—

今大会のテレインはかつてのインカレマップ「千本木行川」のリメイク(「行川II」)である。日光特有の美しい杉並木は可能度の非常によい林を提供し、山は比較的なだらかながら尾根・沢がわかりやすいスピードの出るテレインとなっている。まさにショート向きのテレインといえよう。

全国から地区選抜された選手権クラス出場選手(エリート)は男子180名、女子120名。前々日から日光入りし、推奨トレマップである「七里II」でトレーニングする選手も若干いたが、大部分の選手は前日に日光入りしたようである。前日日光入りした選手の大半は実行委員会が用意した宿舎「ファミテック」に宿泊した。「ファミテック」は今大会の会場でもあり、テレイン内に宿舎があるので選手にとっては非常に便がいい。また、宿舎周辺のモデルマップも用意され地図の感じを確認する選手も多く見られた。

ショートインカレ前夜「ファミテック」にて佐藤信彦実行委員長

(日本学連技術委員長)に今大会のコンセプトについてインタビューした。佐藤氏曰く「ショートインカレは見せる大会でもある。実力ある選手に選手権を取ってもらうレースを用意することと共に見ているお客さんにも見て興奮する演出を用意しています。」実行委員の桜井太郎氏などに見所を聞いてみても「プロ(NHK?)の演出」との返事が返ってきていた。それほど期待できる演出なのか。佐藤氏は続けて「ショートは“新人の登竜門”という認識がある。この夏、力を付けてきた選手を評価するといった場でもある。毎年女子は2年生が優勝していますし、また、新人クラスを上位10人まで表彰するのも新人への動機付けを考慮してのことです。」

今大会の見所は男子は入江無き後の学生チャンプの行方。前回は入江が前評判通りに優勝して一時代を築いたがその入江も卒業した。その後がまに座るのは誰か?全てのシード選手に可能性が

あるが、下馬評では静岡インカレ個人戦3位で団体戦優勝の立役者となった藤城公久選手(筑波大4)が一歩リードとのこと。大量エリートを送り込んでいる関東勢と数は少ないが近年上位を占めている北東勢の争いも見物。女子では過去2回2年生が優勝をさらっていたので新たなヒロインが発掘されるかという点に注目。ここ数年の学生女子OL界を引っ張ってきた金田、志村、千葉が卒業し、現役では静岡インカレ最高位(2位)の山口純子選手(名古屋大4)など4年生や前回チャンプの田中祐子選手(筑波大3)らシード勢の争いが熾烈だ。また、強力筑波女子勢の表彰台独占も十分に考えられる。

全国の学生が一同に会する中、戦前の夜はなごやかに更けていった。

アットホームなショートインカレ-1

前々日、前日と「七里II」でKIMATA fAcTory主催の直前トレコースが開設された。インカレの主催者とは直接関係ないが実行委員会のご好意によって独自に開いたものである。50名の選手が本番に備えてトレーニングに励んでいた。

アットホームなショートインカレ-2

前日夜8時より、有志主催のオフィシャルレースナイトO大会がモデルマップを用いて開かれた。6大学のオフィシャルが参加し、翌日の本戦の結果を占った。結果は、1位津田塾大(千葉あかね)、2位東京工業大(佐々木順)、3位静岡大男子(長堀剛)、4位名古屋大(安斎秀樹)、5位静岡大女子(落合公也)、6位宮城学園女子大(菅野美世)。

予選

ショートOの特徴は予選・決勝の2レース制であること。ショートインカレで決勝Aに進出できるのは、男子で予選上位計36名、女子24名。今大会の特徴は予選におけるレーン制の導入。同じレーンの自分の前の選手が同一コースとは限らない。これにより追走の可能性が減少した。また選手は自分と同じ組の選手をゴールするまで知ることができないため最後まで気が抜けない。注目シード選手の仕上がり状況。予選を流して走る選手もいるがやはり決勝を占う重要なファクターとなる。

男子の予選は3組(3400m)。HE-1は柳瀬陽一(京都大4)がノーシードながら予選トップ、2、3、4位は野田昇作(北海道大4)、土井聡(東北大4)、藤城公久(筑波大4)とシード勢が上位を占めた。HE-2でもトップの藤田幸義(広島大4)から6位まではノーシード、7位諏訪高典(京都大4)、8位加曾利(筑波大3)、11山内亮太(早稲田大4)とシード勢は後方待機。HE-3では1位羽柴公貴(早稲田大3)、2位太田晃弘

(東京大3)、4位大西淳一(同4)がシード選手の貫禄を見せた。シード選手のうち森泰祐(山口大4)、田井利弘(京都大4)は予選落ちした。女子の予選は2組(2400-2500m)。シード選手が各組1、2、3、5、7位を占め全員通過、DE-1では山本康世(ICU4)、片岡由起子(筑波大4)、田中裕子(筑波大3)、山口純子(名古屋大4)、小林み子(新潟大3)、DE-2では中村正子(筑波大3)、染矢和子(千葉大4)、原志保子(静岡大4)、小山由美子(筑波大4)、大西真理子(東京女子大3)が通過、決勝の行方が楽しみとなる。過去2回女子のチャンプは2年生ということで清水由布子(東北大2、DE-1・4位)、河野みどり(北海道大2、DE-1・11位)にも期待がかかる。予選通過の総計は北東男5女3、関東男20女13、北信越男2女4、東海男2女3、関西男5女1、中九四男2女0。やはり地元の関東勢の活躍が目立つ。「七里II」への入山経験の多いものが有利か。また、惜しくも秒差で決勝A進出を逃した選手も多く、ボーダー周辺は、熾烈な争いとな

っていた。

予選の結果について東京大オフィシャルの野中俊樹氏にインタビューした。「予選通過7人は少ない。2年がないのがなあ。まあ決勝で取ればいいから。」とかなり楽観的。「3人入賞するよ。」と自信ありげだった。津田塾大オフィシャルの千葉あかね氏は、「うちはだめだった。うーん筑波かなあ。OLK勢に期待したい。」そのOLK勢の中尾あずさ(実践女子大4)は、「シュークリーム食べたい。」と語っていた。

トラブルで決勝のスタートが予定より遅れることになったが、決勝A進出選手は専用のバスでスタート地区へ向かった。その間決勝ゴール横ステージでは、来る長野五輪での文化プログラムへのスキーO採用をアピールするために来日中のIOF事務局長Lenat Levin氏と国際スキーO連盟会長Veli-Marku Korteniemi氏のスピーチが行われた。併設クラスの表彰が行われ、2人もプレゼンターとして参加された。

日本のオリエンティアの皆さんへ

私は今、大変な喜びと驚きの中にあります。3日前に来日した時にはこのイベント(ショートインカレ)の開催を知らませんでした。私が今回来日した目的は長野五輪でのスキーO導入への働きかけです。快く協力していただいている菅平の皆さんに感謝します。私はそこで村越氏(日本学連会長)にこのイベントの視察を提案されました。私たちIOFの役員にとっていいテレイン、いい大会を見れることはとても喜ばしいことなのでこの会場に来ました。この大会を見て私はJOAへ以下のように言うことを約束します。「IOF(世界のオリエンターリング)は、日本で大きな大会を開くときに来ている」と。(日本で開かれた)APOCから長い年月がたちました。大きな(国際)大会を開くようにJOAに圧力を掛けます。今日は、ショートインカレを見て日本での可能性を十分に感じました。日本の努力に感謝します。

IOF事務局長 LENAT LEVIN

日本の皆さんにお会いできて大変うれしく思います。菅平、日光と楽しい日々を過ごしています。スキーOの担当者ですが、フットOをずっとやってきました。2002年のユタ五輪でのスキーOの正式種目化を目指していますが、その前の菅平で文化プログ

ラムとしての採用を目指しています。日本のオリエンターリングを育ててくれた皆さんに感謝します
国際スキーO連盟会長 VELI-MARKU KORTENIEMI



女子新人クラス表彰
(一番左がIOF事務局長、隣がスキーO委員長)

決勝

決勝のゴールに鹿島田、福士が飛び込む。決勝の試走を兼ねた演出である。2人はそのままステージに登り決勝コースの寸評を語った。鹿島田氏「中間からでも逆転があり得る(21:07)。」福士氏「自分でやれば大丈夫(21:30)。」トップスタート13:40。そのコースを選ばれた選手たちが走り始めた。

実況放送では選手たちがスタート前に書いたアンケートを読み上げている。決勝のスタートは予選の下位選手から。有力選手は後からスタートする。13:50ごろ女子の最初のランナーが第1中間通過と速報が入る。続いて田中節美(筑波大3)がトップで通過(6:44)と報じられる。男子は小泉敦史(千葉大4)が初めて中間を通過(10:07)したとのこと。同じく女子第1中間で岡原桂子(筑波大4)がトップ(6:28)に立ったと放送が入る。やはり女子は筑波勢が強い。13:54ごろ男子シードの山内が第1中間を通過(10:18)。まずまずのタイム。4分後男子第1中間をノーシードの世古口裕史(東京工業大3)が通過(9:57)。この時点でトップに立つ。

14時になり女子前々回チャンプの山口が第1中間をトップ(6:11)で通過したことが報じられると会場が唖った。男子は柿並義宏(東北大4)が第1中間でトップ(9:53)に立つ。静岡インカレの不幸をはねのけるか?同時に小泉が第2中間をトップで通過(21:29)。あと一息でゴールだ。14:05頃前回の女子チャンプ田中裕子の第1中間通過がアナウンスされた。7:19と少し出遅れたがまだまだ挽回可能だ。その直後急坂を下って田中節美がゴールレーンを駆け抜けた。トップゴール。所要時間は21:25。そのままステージに連れていかれインタビューを受けるがその間に同僚の女子シード片岡が第1中間でトップに立った(6:03)ことが放送される。しかし直後に同じくシードの染矢が6:03でトップに。女子はめまぐるしくトップの入れ替わりがあり、これからゴールする選手の好成績が期待された。

14:08ごろ男子小泉がトップゴール(25:26)。女子予選1位のシード選手山本が6:11で第1中間

通過。このタイムは山口と並んで現在のところ3位タイ。14:09:02女子岡原がゴール(23:02)。この時点で同じく筑波でトップゴールの田中節美について2位。シードの片岡、小山、田中裕子、中村の出来次第では筑波の表彰台独占もありうる。その直後、男子シードの山内がゴール(25:21)、首位に立つ。女子の第1中間、注目の筑波シード選手の中村が6:27で通過。今のところ入賞圏内だ。14:13ごろ柿並が男子第2中間をトップで通過(21:11)した模様。そのころ世古口がゴールイン(24:25)、シード選手山内を抑えてトップに立つ。14:16ごろ男子第1中間をシード大西が10:19の好タイムで通過。直後に柿並が25:13でゴールするが世古口に及ばずこの時点で2位。14:19ごろ女子シードの大西が5位でゴール(28:35)。速報板の女子1、2位は筑波のノーシードがまだ並んでいる。

14:21ごろ男子第2中間で藤咲芳春(東京大4)がトップ(20:43)に立つ。そのころ女子シード小山がゴールイン(26:05)、同じく筑波の田中節美、岡原について3位。筑波が女子トップ3を独占と思いきや直後に東北の新鋭清水由布子が25:12でゴール。小山を抜いて3位に。しかし秒差でゴールした中尾あずさ(実践女子大4)が24:16で清水を押しつけ3位。めまぐるしく順位は変わるが未だにトップゴール田中節美が速報板の最上位を占めている。14:22:10、ついに女子のトップが入れ替わった。シード選手の染矢と山本が1秒差でゴール。ラストスタートの山本が20:11で首位に、ついで染矢が21:10で2位に。田中裕子、片岡は山本より先のスタート。残る筑波勢は中村ただ1人。その中村が女子最終スタート14:03。14:23:11までに帰ってこない山本の優勝がほぼ確定する。このころ男子シード太田が第1中間を10:59で通過。前年度チャンプの田中裕子が25:05でゴール。この時点で6位。

14:23:11、女子山本康世選手(ICU4)の初優勝がほぼ確定。アナウンスと同時にOLK勢が歓喜の声をあげる。山本は初タイトル。その直後シード片岡がゴール

(24:19)。この時点で6位。このまま入賞すれば3年連続入賞の会挙。女子は決着が付いたが男子はまだ熱い戦いが続いていた。藤咲が24:47でゴール。柿並を抜いて世古口に2秒及ばずこの時点で2位。14:25:13女子シードの中村がゴール(22:13)、4位入賞が確定。このころ男子シード大西は第2中間藤咲を上回るタイム(20:18)で通過、この時点でトップに立つ。ゴールまでは順調にいけばあと3分少々。トップの世古口を上回ることができるか。

14:29:49、大西がゴールレーンを駆け抜けた。タイムは23:49。世古口を上回ること36秒。首位に立つ。しかし大西より後ろのスタートは9人。しかも土井、野田、太田、羽柴というシード選手が残っているからまだ分からない。14:32ごろシード選手太田が第2中間通過。トップ大西とのタイム差40秒をキープしている。ラストの出来次第では逆転も十分あり得る。シード選手の土井、野田がゴールするが入賞ラインには届かず。太田もタキシードトリム必死の形相でゴールインするも25:03で4位。最終スタートシードの羽柴は大きくミスをしているとの放送で大西の優勝が近づく。OLK勢のカウントダウンの中、14:38:49、大西淳一選手(東京大4)の優勝がほぼ確定。男女共に会内からの優勝でOLK勢が沸きに沸く。



必死の表情でゴールする太田選手(東京大3)

-成績-

-男子選手権クラス-

| | | | | |
|---|--------|---|--------|---------|
| 1 | 大西 淳一 | 4 | 東京大学 | 0:23:49 |
| 2 | 世古口 裕史 | 3 | 東京工業大学 | 0:24:25 |
| 3 | 藤咲 芳春 | 4 | 東京大学 | 0:24:47 |
| 4 | 太田 晃弘 | 3 | 東京大学 | 0:25:03 |
| 5 | 柿並 義宏 | 4 | 東北大学 | 0:25:13 |
| 6 | 山内 亮太 | 4 | 早稲田大学 | 0:25:21 |



(上段右から)世古口、大西、藤咲、(下段右から)太田、柿並、山内

-女子選手権クラス-

| | | | | |
|---|--------|---|---------|---------|
| 1 | 山本 康世 | 4 | 国際基督教大学 | 0:20:11 |
| 2 | 染矢 和子 | 4 | 千葉大学 | 0:21:10 |
| 3 | 田中 節美 | 3 | 筑波大学 | 0:21:25 |
| 4 | 中村 正子 | 3 | 筑波大学 | 0:22:13 |
| 5 | 岡原 桂子 | 4 | 筑波大学 | 0:23:02 |
| 6 | 中尾 あずさ | 4 | 実践女子大学 | 0:24:16 |



(上段右から)染矢、山本、田中、(下段右から)中村、岡原、中尾

-チャンプの声-

ショートインカレを終えて 1995年10月23日

O-JAPANに載るこの手の記事は、いつも楽しく読ませていただいているのですが、まさか今回、自分が文章を書くことになるとは思っていませんでした。

この秋のシーズンはまだ始まったばかりで、この原稿が載ったO-JAPANが届くころにはまたどうなっているのかわからないのがこわいのですが、現時点での原稿だということを書いてみたいと思います。

ショートインカレは、ちょうど僕が1年の時の試行大会で始まりました。僕は1年の時は当然セレクトに落ちましたが、2年の時も同期の何人かが通過した中で僕は大きくはずして通過を果たせず。3年のときはなんとかセレクトには通ったものの大会直前に体調を崩し参加できませんでした。大会前日の夕方ようやく回復してきたのですが、そのときにはもはや鬼首にたどり着くための手ごたえがなく、悔しい思いをしました。帰ってきた人たちの話を聞いたり、地図や写真を見たりして、無理をしても行けばよかったと、さらに悔やんだ覚えがあります。だから今年もしきりに言われていた「魅せる大会」がレースより楽しみで、今回のショートインカレを迎えました。レースの方は予選のスタート枠まで行って地図をもらってスタートできたらそれで目標は達成、なんて周りには言っていたものです。

当日、予選のスタート時刻が近づきスタート枠に入ると、スタートする人たちの多くが、普段の大会と違ってものすごいスピードでスタートして行くのを見て、ショートとはこんなものかとびっくりしましたが、自分はずっと通りスタートしようと考えました。しかし、いざスタートしてみると自分も併走する人たちのペースにのって走っていました。そして、1ヶ所でミスをしたばかりは、コントロールをスムーズに通過していきあっという間にゴールして

大西 淳一(東京大4)

いました。レースを振り返ると、こんなに思いっきり、そして気持ちよく林の中を走ったのは初めてだということに気づき、ショートも面白いなあという感想をもちました。



表彰式でインタビューを受ける大西選手

決勝進出が決まったことでとりあえず最低限の目標は果たしたと満足し、決勝でも同じような「気持ちいいレース」ができると楽しみになり、リラックスして決勝までの時間を過ごすことができました。

決勝も同じ調子で、途中で追いついた選手と一緒に、全力に近いスピードで気持ちの良い杉林を駆け抜けているときは、自分がショートインカレのレースをしていることなど忘れそうなほど必死でした。予選のときほどあっさりとはコントロールが見つからないことが多かったのですが、大きなミスもなくいつの間にかラスポにたどり着き、最後の力を振り絞ってゴールすると、その時点でトップのタイムだという放送が聞こえました。でも、どうせあとのス

タートの誰かがそれを上回るタイムで帰ってくるに違いないと確信していたから、自分の優勝が決まったときは本当にびっくりしました。

自分が楽しみにしていたショートインカレの雰囲気、それを作り出す速報ボード、実況中継、表彰式といった演出の主役のなかに自分がいることが信じられませんでした。だから残念だったのはただ一つ、今年も自分が観客としてその演出を見られなかったことです。

さて、今回のショートインカレでは我が東大OLKが目立ってしまったようです。男子選手権クラスでは7人もの決勝進出者を出し、そのうち3人が入賞し、さらに B-Final と学生併設クラスでもトップ

女子選手権者へのインタビュー 山本康世選手(国際基督教大4)

・優勝おめでとうございます。約1ヶ月たった現時点での実感は

先日「いぶき」(日本学連機関誌)のショートの記事を見て思い出しました。

・簡単な自己紹介を

ヒディー(山本英勝選手、かつての東大トリオの1人)の妹です。OLは大学に入ってから始めました。もちろん兄の影響で、ICU-OLKを作ってOLKに入れてもらいました。OLは好きでやっています。OLKのみんなが好きだから。私が速くなったとしたらそれはOLKのみんなのおかげ。

・ショートインカレに向けての準備は

2年、3年は失敗。苦手意識が強かった。最近はレース前半でのつぼりが少なくなり安定してきた。集中できるようになったと思う。地図読みはしていました。

・戦前予想は

筑波勢、原志保子(静岡大4・シード)が上位争い。私は予選通過できればと。

・ショートインカレでの目標は

予選通過。あわよくば入賞。

・その予選、トップで通過しましたが

まあまあいい調子ではしれたので流したのにトップでびっくりしました。OLKのみんなも驚いていた。でも「予選トップ決勝ピリ」って落ちがあるのではという感じでした。

・決勝前スタート地区は

バナナを3、4本食べました。別に緊張もしませんでした。スタートでは他の選手は緊張していたみたいけど OLK のみんなはへらへらしていました。OLKの子がいっぱいいるので緊張しませんでした。

・山中での展開は

予選通過の目標も達成したし、楽にかーっと帰るだけだったんで気楽でした。スタート位置もばれればあとは会場まで帰るだけ。スタートして藤咲と会い声を掛け合ったのがうれしかった。コースは地形が読みやすいテレインだったのでやりやすかったです。ゴールでOLKの友達がカメラを持って待ってたんです。その子が笑ってゴールしたらだめ、とい

をとるなど、当事者の一人としても全くの予想外の結果でした。この調子で来年春のインカレも迎えられると思うのですが、そうはいかないんでしょうね。

最後に、実行委員会のみなさんには、僕の期待を上回るすばらしい大会の舞台を用意してくださったわけで、感謝しなければなりません。そして今回、クラシックにはないショートレースの面白さを身をもって体験した僕としては、ショートインカレが今後もぜひ続いて行ってほしいし、またこの面白さを体験していない社会人のみなさんにも体験してほしいなと感じました。

っていたので必死に走ってゴールしました。

・ゴールしたとき感想は

分からなかったけど OLK のみんなが騒いでいたのでひよっとしたら、と思いました。

・ショートインカレに対するイメージは

大好き。観戦が面白い。実況中継のある大会がいい。でも1日2本走るのは面倒。

・これからの目標は

去年は千葉大大会で挫いたので怪我をしないようにしたい。最後の年なのでやりたいことをやりたい。やりたいこととはOLKのみんなと大会を出まくること。インカレはまだ意識していない。

・気になる人は

中尾あずさ。会内でも一番意識している。あとは原志保子と今回知った田中節美さん。

・学生チャンプと呼ばれていかがですか

全然呼ばれません。

・お兄さんはなにかコメントされましたか

「速かったね」と。「これからやっちゃんはある目標になるんだよ」って言われました。やはり兄がいるから今の私がいると思います。

・おめでとうございます。これからも頑張ってください。



優勝確定後、OLKの仲間に囲まれて

講評

記者が見たところ、ショートインカレも第3回を数え、選手権大会としての権威と盛り上がりが見られるようになったように感じられる。全国から選抜された選手が競い合う場として定着してきた。今回は日本学連技術委員会が事実上の主管となって様々な試みが実施されたが、それぞれ評価は高いようである。例えば予選におけるレーン制であるが多くの選手に好感を持って受け入れられている。決勝の盛り上げ方も苦心の跡が見られる。

ただ今大会や今後のショートインカレに問題がないわけではない。東北大のチームオフィシャルである入江崇氏が指摘してい

るように競技規則の定めによれば予選の各組で出身地区学連の比を等しくすべきところ、1つの組に北東学連の選手が偏って配分されていた。レーン制にすると選手・チームオフィシャル側は開けてみるまでその点のチェックができないのでTAなどのチェック強化が必要だ。また今回は春のインカレのトレマップを競技地図として使い、運営者も技術委員による少数精鋭主義であったため財政面の問題は目立たなかったがまだまだ併設参加者が少なく今後の赤字でない大会運営方式に課題が残る。春のインカレに関してはかなり先までのビジ

ョンが示されているがショートインカレに関するビジョンをまとめ上げなければならない。さらに今回次週に学連セクション(筑波大会)を控えた一部の有力選手が参加しないなどまだまだショートインカレのインカレとしての権威が確立していない面も指摘できよう。

ともあれ選手権を決めるのにふさわしい地図とコースと演出の中、見事栄冠を勝ち取った大西淳一、山本康世両選手に拍手を送りたい。そして実行委員長佐藤信彦氏のコメントを掲載して結びとしたい。

さわやかな秋空のもとで第3回ショートインカレは無事開催されました。今回の大会は、ショートディスタンスの選手権大会の今後のあるべき姿を提示するというで学連の技術委員会が中心となって、準備を進めてきました。ショートディスタンスは午前に予選、午後決勝という形で行なわれますが、特に午後決勝(選ばれた選手だけが走る)をいかに盛り上げ、走っても、応援していてもたのしめるものにするかに腐心しました。演出には経験者に多くはいつてもらい、ノウハウを存分に発揮してもらいました。とにかく朝から夕方まで飽きない、待ちくたびれないタイムスケジュールを心がけるとともに、会場についても敷いて広いグラウンドではなく、体育館前の程よい大きさのスペースをメインにしました。そして、おそらく日本初の決勝確定後すぐの表彰式の実施です。これらの結果、会場はつねに人だかりが絶えませんでした。皆楽しんでいただけたでしょうか。

また、今回はスキーOの国際大会の関係で来日中の国際オリエンテーリング連盟の事務局長Lennard氏とスキーC委員長のVeli-Marku氏が会場を訪れてくれましたので、昼に行なった新人クラスの表彰式では、メダルの授与をお願いしました。

世界選手権で入賞でもしない限りありえないI OFのVIPから表彰された彼らの今後が楽しみです。コースや地図についても絶賛してくれましたので、日本のOL事情を再評価してくれていたとしたら、ありがたいことです。

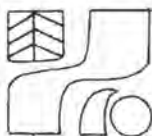
インカレショート第4回大会(来年)は11月3、4日に今意気盛んな長野県協会に共催いただいで菅平高原で開催されます。みなさん、お楽しみに。

第3回ショートインカレ実行委員長 佐藤信彦



*普段記事を書いていらっしゃる桐田氏が奈良女のチームオフィシャルに就任されたため、私、木俣が代わって拙文ながらレポートさせていただきました。桐田氏の記事より品質が落ちるかもしれませんがご容赦下さい。記者多忙のため入稿が遅れ編集部には多大なご迷惑をおかけしたことをお詫びします。また取材に快く応じてくれた大西、山本両選手とここに掲載された方々の他、諏訪君(京都大4)、遠山君(東京大3)、林ゆっきーさん(静岡大2)他皆さんに感謝します。

*編集部のご好意により本原稿はKIMATA factoryより電子出版されております。WWW(World wide Web)をごらんになれる方は、
<http://gew3.genv.nagoya-u.ac.jp/orienteering/index.html>
にアクセスしてみてください。



SQUAD REPORT

WOC SQUAD JAPAN は強化選手のサポートをしています

SQUAD広報担当 桐田幸宏

95年度エリートポイント中間報告 (集計：小林岳人氏)

1995年男子エリートポイント

| 順位 | 氏名 | 合計 | 多摩 | 大阪 | 東大 | 東日本 | 筑大 | 千大 | 朝日 | 西日本 |
|----|-------|----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|
| 1 | 松澤俊行 | 74 | 25 | 25 | | 24 | 24 | 24 | 12 | 24 |
| 2 | 鹿島田浩二 | 73 | | | 25 | | | | 25 | 23 |
| 3 | 利光良平 | 66 | | | 13 | 23 | 22 | | 21 | 17 |
| 4 | 小河原成哲 | 65 | 19 | | | 6 | 25 | 10 | 11 | 21 |
| 5 | 加賀屋博文 | 64 | 24 | | 23 | | 17 | | | |
| 6 | 田中正人 | 61 | | | | 25 | 12 | 13 | 23 | |
| 7 | 山本英勝 | 60 | | | 17 | | 16 | 25 | 4 | 18 |
| 7 | 広江淳良 | 60 | | | 7 | 15 | 21 | | 24 | |
| 9 | 落合公也 | 59 | | 7 | | 17 | 20 | | 14 | 22 |
| 9 | 鈴木康史 | 59 | 20 | 21 | 18 | | | | | |
| 11 | 鈴木卓弥 | 58 | 16 | | 24 | | | | 18 | |
| 12 | 元木悟 | 57 | 7 | 22 | 12 | 20 | | | | 15 |
| 12 | 菅原琢 | 57 | | 16 | 22 | | | 11 | 16 | 19 |
| 14 | 羽鳥和重 | 56 | | | | 11 | | 22 | 20 | 14 |
| 15 | 石井龍男 | 53 | 5 | 18 | | | 15 | 20 | 8 | 4 |
| 16 | 櫻井太郎 | 51 | 6 | 17 | 16 | 18 | 11 | | | |
| 17 | 粕田金一 | 50 | | | | | 18 | 12 | 20 | |
| 17 | 鈴木雄輔 | 50 | 17 | 12 | 21 | 12 | | | | |
| 19 | 佐藤隆徳 | 48 | | | | 8 | 19 | | 9 | 20 |
| 20 | 丸山哲史 | 46 | 23 | | | | | 17 | 2 | 6 |
| 20 | 国沢五月 | 46 | | 10 | | | 9 | 23 | | 13 |
| 22 | 武田光 | 44 | 8 | 13 | | | 23 | | | |
| 23 | 入江崇 | 43 | | 24 | 19 | | | | | |
| 24 | 岩倉毅 | 38 | | | | | 14 | 2 | 22 | |
| 24 | 竹内藤雄 | 38 | 2 | 19 | | 9 | 10 | | | |
| 26 | 吉田勉 | 37 | 21 | | | 16 | | | | |
| 27 | 太田尊司 | 36 | | | | 19 | | 1 | | 16 |
| 28 | 大西淳一 | 35 | | | | 22 | | | 13 | |
| 29 | 奥村理也 | 34 | 9 | 6 | | 5 | 7 | | 15 | 10 |
| 30 | 松下愛則 | 33 | 1 | 23 | 3 | | | | 7 | |
| 30 | 野中俊樹 | 33 | | 15 | 1 | | 3 | 15 | | |
| 32 | 高島和宏 | 32 | 15 | 11 | 6 | | | | | |
| 32 | 瀧川英雄 | 32 | 12 | | 14 | | 6 | | | |
| 34 | 諏訪高典 | 31 | | | 8 | 13 | | | 10 | |
| 35 | 富田吉郎 | 30 | | 9 | | 21 | | | | |
| 36 | 藤城公久 | 28 | | | | | | | 17 | 11 |
| 36 | 太田宏樹 | 28 | 18 | | 10 | | | | | |
| 38 | 太田晃弘 | 27 | | | | | | 21 | 6 | |
| 38 | 田代雅之 | 27 | | | | 1 | 8 | 18 | | |
| 38 | 野田健史 | 27 | | | 11 | | | 16 | | |
| 41 | 村越真 | 25 | | | | | | | | 25 |
| 42 | 安斎秀樹 | 23 | | | | 14 | | 9 | | |
| 43 | 稲津隆敏 | 22 | 22 | | | | | | | |
| 44 | 野島茂樹 | 20 | | 5 | | 3 | | | 3 | 12 |
| 44 | 平井均 | 20 | | 20 | | | | | | |
| 44 | 宇野裕人 | 20 | | | 20 | | | | | |
| 47 | 藤井範久 | 19 | | 3 | | 7 | | | | 9 |
| 47 | 砂川貴幸 | 19 | 13 | | 6 | | | | | |
| 47 | 稲葉英雄 | 19 | | | | | | 19 | | |
| 50 | 土井聡 | 17 | | 1 | 9 | | | 7 | | |

1995年エリートポイント女子

| 順位 | 氏名 | 合計 | 多摩 | 大阪 | 東大 | 東日本 | 筑大 | 千大 | 朝日 | 西日本 |
|----|-------|----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|
| 1 | 富士淑子 | 59 | | 20 | 16 | | 19 | 20 | 16 | 13 |
| 2 | 金並由香 | 58 | 13 | 9 | 15 | 17 | 20 | 19 | 19 | |
| 2 | 木植早生 | 58 | 19 | 12 | 18 | 20 | 18 | 18 | 13 | 19 |
| 4 | 高野由紀 | 55 | 20 | | 20 | | 15 | 14 | 11 | |
| 5 | 金田収子 | 54 | | | | 19 | 12 | 17 | | 18 |
| 6 | 田島利佳 | 53 | 15 | 19 | 19 | 13 | | | | |
| 6 | 金子しのぶ | 53 | 18 | 17 | 17 | 18 | 17 | 9 | 17 | 15 |
| 8 | 宮本知江子 | 48 | | | 14 | 11 | 14 | 10 | 20 | |
| 8 | 千葉あかね | 48 | | 4 | 10 | 16 | | 7 | 15 | 17 |
| 10 | 原志保子 | 46 | | 10 | | 12 | | 5 | 14 | 20 |
| 11 | 三好暢子 | 43 | 10 | 13 | | 14 | 16 | | 8 | |
| 12 | 鈴木夕紀子 | 42 | 17 | 15 | | | | | 4 | 10 |
| 12 | 田中裕子 | 42 | 16 | 18 | | | | 8 | 3 | 5 |
| 14 | 酒井佳子 | 39 | | | 13 | | 11 | 15 | 6 | |
| 14 | 山本康世 | 39 | 8 | 14 | | 10 | 13 | 12 | | |
| 16 | 草野望 | 38 | | | 4 | 15 | 8 | 13 | 10 | 9 |
| 17 | 大西真理子 | 32 | 9 | | | | | | 9 | 14 |
| 18 | 出田裕子 | 31 | | | 12 | 7 | | | 12 | |
| 18 | 片岡由起子 | 31 | | 16 | | | | | 7 | 8 |
| 20 | 中尾あずさ | 22 | | 2 | | 9 | | 11 | | |
| 20 | 清宮秀子 | 22 | 14 | | | | 5 | 3 | | |
| 22 | 新桂子 | 21 | 12 | | 5 | | 4 | | | |
| 22 | 三宅朋美 | 21 | | | | | 9 | | 5 | 7 |
| 24 | 清水容子 | 20 | | | 11 | 6 | 3 | 1 | | |
| 24 | 稲村仁美 | 20 | | 8 | | | | | | 12 |
| 26 | 濱田由紀 | 19 | | | 1 | | 2 | | | 16 |
| 27 | 宇野明子 | 18 | | | | | | | 18 | |
| 28 | 竹内亜希子 | 17 | | | 7 | | 10 | | | |
| 29 | 小山由美子 | 16 | | | | | | 16 | | |
| 29 | 岩谷ひろみ | 16 | | 6 | 3 | 4 | | 4 | | 6 |

男子は序盤の2レースで優勝を飾った松沢選手がトップに立っている。出走した7レースの内6レースを優勝か2位で飾っているのは快挙といえよう。特に西日本では全日本championの鹿島田選手もおさえ、堂々の順優勝を遂げている。鹿島田選手はその西日本以外、出走した2レースでは優勝。当然の実力を示している。村越選手は出走が西日本のみ。優勝はしているものの、残る出走レースは全日本大会だけらしく、上位3レースを合計するこのエリートポイントでは、今年度は20位前後に甘んじそうである。鹿島田・村越両選手が未出走の大会で優勝を手にしたのは、小河原成哲・田中正人・山本英勝の各選手。WM代表選手だった加賀屋・鈴木・入江の各選手は精彩に欠いている。3選手とも、東・西の両大会でポイントがないのは由々しき事態である。全日本の行方やいかに。



朝日大会・男子表彰式



朝日大会・女子表彰式

女子は富士選手がトップ。絶対的な安定性は見られないが、昨年の不調は吹っ飛んでいる。2位の金並が最近では好調。筑波から朝日にかけてのポイントには特筆すべきものがある。昨年は20ポイントを独占していた木植選手はいまいちばつとしないが、WMでは快挙をなしとげ、全日本にも期待の4連覇がかかる。女子はおおむねWM選手が上位を占めている。高野・宮本の経験者も含めるとなおさら。そんな中でもあるからこそ金並の活躍は特筆に値するといえよう。

学生のトップは原選手。西日本大会の優勝が光る。次は田中選手だがシーズン以降の成績はいまいち。学生が目立たないところは、女子としては昨年とは異なる傾向。8位の千葉選手も含め、ここ数年のインカレ活躍組が卒業後も活躍を続けており、女子OL界としては明るい兆しが見えている。

最近原稿をさばりがちで申し訳ございません。次号は「SQUAD総会報告」「WOC95を振り返る・入江編」をお届けします。

パーマントコース



りま〜と

□1995年4月30日(日)
福島県 ~大高 95-8~
「天神山中
スポーツ公園」

[距離] 10 km
[ポスト数] 10本 PC 0-Map

常磐線「竜田」駅下車。海に向かって徒歩20分ほどでスタート地点の「天神岬スポーツ公園」に着く。公園内「サイクリングターミナル」前に案内板がある。ところがマップは現地で調達できず、駅降りて反対側に10分余り行ったところの「榊葉町公民館」にある。車を使わないと不便な位置関係。因みに公民館前に⑧があるのでここを拠点に回ることもできる。昨年設置されたばかりの新コース。スタート地点がサイクリングターミナルということもあってか、サイクルOLもできる設定となっている。従って高低差も少なく歩きやすく、草深いところは全くない。海に近いところであるが、コースの最中に海を見渡せるところはなく、専ら長閑な田園地帯を歩く。⑥⑦は総合グラウンド内。⑩は「天神山城跡」にある。手軽なコースである。

(榊葉町公民館 ☎0240-25-2236)

□1995年5月21日(日)
福島県 ~大高 95-9~
「安達太良高原」

[距離] 9.8 km
[ポスト数] 9本 PC 0-Map

東北本線「二本松」駅より福島交通バス「奥岳」行きで「林間学校入口」下車。「東京都葛飾区あだたら高原学園」がスタート地点で外のマスターは明瞭。マップもあるにはあるが、あだたら高原学園では林間学校等の研修用に県協会から買い上げたもので市販はしないというスタンスを基本的にとっている。しかし、完成したばかりの新マップは下の観光協会ではまだ扱っていなかったために無理を言って分けていただいた。同一ゲレンデに「岳温泉」コースがあり5つのポストが共通。ポストも2コース同時に平成4年の郵政省からの補助金で更新された。高原気分がたっぷり味わえるコースで整備状況も良く、のんびりと回れる。昨年「岳温泉」コースを回った際には引き抜かれていた①(岳温泉コースの

⑥)はしっかりと埋め込まれていた。問題点のない好コース。

(東京都葛飾区あだたら高原学園 ☎0243-24-2206)

□1995年6月6日(日)
群馬県 ~大高 95-10~

「奥日光
丸沼高原瑩塚山」

[距離] 8 km
[ポスト数] 8本 PC 0-Map

上越線「沼田」または日光湯本から東武バスで「丸沼高原スキー場」下車、徒歩5分。「シャレー丸沼」がスタート地点で平成4年調査の新マップがある。3年前「レイクサイド」コースを回ったが、「瑩塚山」コースはその当時から閉鎖中で、現在も尚解除されていない。従って、案内板の中のマスターも取り外されている。私は以前富田さんから頂いたコピーからコースを転記した。スキー場に設置されていたポストが無くなっているという話を聞いていたので、残っているポストだけでも確認して来るつもりで歩きはじめた。スタート直後は大変な濃霧で数メートル先がやっと見える程度であった。①②⑧がスキー場にあるのでそれほど期待せずにいくと、①は群馬特有の小型ポストに更新されていたものの、しっかりと以前からのポスト位置に存在した。②はスキーゲレンデを真っ直ぐ登っていく。何しろ先が見通せない濃霧で、どのくらい歩いてきたのかさっぱり分からない有様。そうこうしているうちに、一本例の小型ポストが現れた。リフトの位置関係から従来のポスト位置とは別のところにある。どうやらこれは⑧を移設したものと思われる。②は更にスキーゲレンデを進んだところに隠すようにして倒されていた。このポストは標準サイズのものである。倒されていた理由は少し先の小道の入口と同じ記号の小型ポストが設置されていたことで想像がつく。因みにこの小道の入口まではスキーゲレンデを引き続き歩くのだが、何と6月だというのに雪が残っていた。坂であったので滑って苦労した。③辺りからは霧も晴れ一安心。スキー場を外れると一転して風景は原生林へと変わる。③〜⑦のポストは以前そのまま標準サイズで健在。⑧は岩をくり抜いた小さなトンネル

の手前がある。トンネルを潜るとまた、スキーゲレンデに出る。ここまで登ってくるとスキーも上級コースになるようで、勾配もかなりきつい。⑥へはその急勾配を直登しなければならない。登り詰める小道があり、林に入った途端、一面の雪が目に見え込んでくる。初夏というのに雪のよう。流石にこの季節であるから、溶けかけたところも多く、特に木の周りの雪は緩く、脛あたりまで潜ってしまう。非常に難渋した区間。その苦労を吹き飛ばしてくれるのが、⑥のある「瑩塚山」山頂、標高1,885mからの大パノラマ。濃霧が晴れたのは大変ラッキーであった。⑧の旧ポスト位置には建物があったりあり、勿論ポストはなかった。登ってきたゲレンデを一気に下ると「シャレー丸沼」に帰り着く。マップも更新したことだし、マスターさえしっかりと新ポスト位置を明記すればすぐにでも再開できそうなコース状態である。

(丸沼高原スキー場 ☎0278-58-2211)

□1995年9月18日(月)
大阪府 ~大高 95-11~

「茨木竜王山」

[距離] 12 km
[ポスト数] 8本 PC 0-Map

JRまたは阪急「茨木」駅より阪急バス忍頂寺線「余野」行きで「泉原」下車。バス停前「茨木市役所清溪出張所」がスタート地点。案内板の中のマスターは明瞭で、マップは近くの「木下商店」「木下米穀店」「中谷商店」で扱っている。保育社から刊行された「カラーブックスオリエンテーリング」に当コースの紹介ページがある。そのマップと比較すると③が北寄りに移設されている。その他は以前のまま。スタートから④の「忍頂寺」までは東海自然歩道を辿る。しかし「自然歩道」という響きには裏腹の立派な舗装道路で、まるでサイクリングロードを歩いているような気分になる。案に歩けるが少々興奮。⑤がクライマックスの「竜王山」。旧マップには記されていないが最短の急坂を登り詰ると⑤に出会う。展望台もあり、家族連れなどはここで昼食にするといよい。⑦へはOL本来の楽しみであるルート選択が幾通りもある。⑧周辺には隠れクリシタンの旧家があるとのこと。古いコースであるが、ポストも更新され、整備状況は完全で、永年管理されてきた方々に頭が下がる。

(大阪府OL委員会 ☎06-942-5146)

□1995年9月18日(月)
大阪府 ~大高 95-12~
「有仁寺坊成山山麓」

[距離] 10km
[ポスト数] 8本 PC 0-Map

能勢鉄道「山下」駅より阪急バス「宿野」行きで「能勢町役場前」下車。役場と同じ敷地内にある「中央公民館」前がスタート地点。マップは事務所にあり、外のマスターは辛うじて判読可能。コース名のとおり、城山山麓の平坦地を巡るコースで、小径を辿るような区間は全くない。①「月峰寺」、③「山辺神社」、⑤「稲荷神社」、⑦「岐尼神社」といった具合に半数のポストが神社や寺に置かれている。④のすぐそばにも「玉泉寺」があるため、きっとここだろうと思って探したが、ポストは池まで下った突き当たりであった。⑥~⑧は退屈な主要道路。⑧は支柱が折れ、草むらに倒れていた。この⑧の分岐にはかつての「西能勢」コースのポストの支柱も残っている。所要2時間の易しいコース。
(大阪府OL委員会 ☎06-942-5146)

□1995年9月20日(水)
福井県 ~大高 95-13~
「文殊」

[距離] 10km
[ポスト数] 10本

北陸本線「大土呂」駅下車。駅前がスタート地点でマップは「加藤商店」で扱っている。立派な案内板があり、中のマスターも鮮明。コースの整備状況の良さが最初から期待できる。因みにマップは1:20000の古典マップ。ポストは傷んだものから順次更新されたようで、4つのタイプで構成されている。文殊山は遊歩道がしっかりと整備されており、コースも大半がその遊歩道を通る。平日にもかかわらず、⑤近くのおずまやにはハイカーがいたり、④への途中で⑧への途中でMTBに乗って巡っている人に会ったりと、地元の方に親しまれている山であることが伺える。④~⑤が唯一遊歩道を外れてOLらしい小径に入る。途中から見渡せる平野の景色は気分爽快。⑩はこのコースの整備状況には異様に感じる開設当初の古錆びたポストが現役に頑張っている。壊滅的な福井県下のPCの中にあっても現在でも回ることでできる数少ないコースの一つ。推薦ベストコース。
(静岡サンワコン内 福井県OL協会 ☎0776-36-2790)

□1995年9月20日(水)
福井県 ~大高 95-14~
「勝山」平泉寺」

[距離] 9km
[ポスト数] 10本 PC 0-Map

北陸本線「福井」駅より京福電鉄で終点の「勝山」駅下車。市内バスに乗り換え「平泉寺小前」で下りると、近くにスタート地点の「平泉寺公民館」がある。但し、私の場合は車で現地を訪れたのでバスの本数については確認しなかった。さて、スタート地点の公民館には、マップどころか案内板もなく、事前に全て勝山市教育委員会で入手しておく必要がある。さて、この日は朝のうちに大阪を立ち、途中「文殊」コースを回ってきているので、スタート時点で既に夕方4時を過ぎており、所要時間2時間以内で回らないと日暮れを迎えてしまう状況であった。コースは開設当初のものではないようで、新設されたポストのほかに、②の近くと⑤の手前で古いポストを見かけた。山裾と一部牧草地を巡る平坦で易しいコース。⑤~⑧の先までは執拗についてくる野良犬と一緒に歩いた。⑩はすぐ傍まで造成が行われているが、辛うじて難を逃れている。特にポストを探し回るようなところもなく、真っ暗になる前に公民館に帰り着くことができた。せっかくコースを作り直したのに、ほとんど利用する人はいないように感じるコースである。
(勝山市教育委員会体育課 ☎0779-88-1111)

□1995年9月21日(木)
石川県 ~大高 95-15~
「加賀三谷(城山官山)」

[距離] 5.5km
[ポスト数] 10本 0-Map

北陸本線「大聖寺」駅下車。南へ徒歩25分の「三谷公民館」がスタート地点。マップもここにあるとのことだが、私は事前に石川県下全コースのマップを協会の孫田三郎氏より送付していただいたので、確認はしていない。もっとも早朝5時57分に歩きはじめたので、まだ開館していなかったが。以前は7.5kmのコースだったようだが、今は5.5kmに短縮されている。マップは競技用0-MAP「城山官山」を利用しており、ポスト記号等のチェック欄がない。丘陵地帯の小径がほとんどで、名所巡りに主眼が置かれているようなPCとは様相が違う。⑧は分かりやすい道の分岐だが、見当たらず。何しろポストは旋破りの平板式で正面から見

ないととてもポストとは思えない代物。公認のPCを歩いている気分には全くなれなかったが、競技志向の方には程よい練習コースになる。
(石川県OL協会 ☎0726-41-5582)

□1995年9月21日(木)
石川県 ~大高 95-16~
「一口生水」

[距離] 7km
[ポスト数] 10本 0-Map

北陸本線「粟津」駅下車。徒歩30分。「一口生水(ひとくみず)」地蔵公園に案内板がある。公園といっても一口生水のあるほんの一區画のことで、立派な広場があったり、管理事務所があったりするわけではない。マップは小松市OL協会事務局で扱っているとのこと。ここは平成2年の全日本大会終了を待って、ゴルフ場造成が始まり、今は小松CCとして営業している。当コースは平成4年の補助金で新設されたもので、造成を逃れたマップ南東地区のみで組まれている。スタート地点の案内板の横には全日本大会の立派な記念碑が置かれていた。スタート地点から①までが異常に遠く、2km近くはある。②から山に入り、大半が沢道を歩く。④周辺では造成の最中でポストも若干壊れて頼りなく立っていた。⑧⑨のように道から外れたポストがあると緊張感が出て興味が倍増する。
(石川県OL協会 ☎0726-41-5582)

□1995年9月21日(木)
石川県 ~大高 95-17~
「小松公良いの森」

[距離] 5km
[ポスト数] 10本 PC 0-Map

北陸本線「小松」駅より小松バス尾小屋岩上線「加賀八幡」下車。徒歩20分。または「八幡温泉」下車。徒歩7分。「加賀八幡温泉まつやわた荘」がスタート地点でマップがあり、外のマスターも明瞭。マップはPCオリジナルのもの。憩いの森を起点に国道8号沿いの丘陵地帯を巡る初級コース。かつての「小松市ハニエ」の代替コースでもある。平成5年の補助金でポストは更新され、全て標準サイズの新製品。⑤へのルートは宅地開発が進み地図とは多少異なるが、変電所があるのでそれほど難しくはないはず。手軽な散策コースである。
(石川県OL協会 ☎0726-41-5582)
休ケ:-
〒344 春日部市武里田地 5-23-503
大高 竜亮

楽しいこといっぱい!

長野県オリエンテーリング協会の今後のビック企画

◎長野オリンピック冬季競技大会組織委員会 (NAOC) 後援 (7長才広262号) ◎

第20回記念長野県オリエンテーリング2日間大会 菅平高原 1997年11月1～3日

－ (社) 日本オリエンテーリング協会平成9年度公認大会申請予定－

【大会開催趣旨】

オリエンテーリングには大きく分けて、フットオリエンテーリング (通常のオリエンテーリング) とスキーオリエンテーリングがあり、いずれも世界選手権大会やワールドカップが行われている。フットオリエンテーリングは1977年に、スキーオリエンテーリングは1949年に、オリンピック競技大会種目として承認されているが、現在、国際オリエンテーリング連盟は、スキーオリエンテーリングが2002年オリンピック冬季競技大会の正式種目となることを目指して精力的な運動を展開している。長野県オリエンテーリング協会では、1998年の長野オリンピックの年に「国際スキーオリエンテーリング大会」を計画している。今回は「長野オリンピック冬季競技大会」の成功と、日本におけるオリエンテーリングの今後の発展を祈念して、長野オリンピック冬季競技大会の100日前に、「第20回記念長野県オリエンテーリング2日間大会」を開催する。

◎その他の長野県内のオリエンテーリング大会イベント◎

第18回長野県オリエンテーリング大会 (予定)

第2回北信越学生オリエンテーリング選手権大会併設

山吹高原 NEW MAP 1996年夏開催 地図調査進行中

第19回長野県オリエンテーリング2日間大会 兼 第2回菅平高原オリエンテーリング大会 (予定)

第4回日本学生ショートオリエンテーリング選手権大会 兼 リレーオリエンテーリング併設

菅平高原 NEW MAP 1996年11月2～4日開催 地図調査進行中



NAGANO
1 9 9 8



©1993 NAOC TM NAOC 5-238

長野オリンピック冬季競技大会

(1998年2月7日～2月22日)

秋晴れのもと「広島城・中央公園」を舞台に ～第37回健康体力づくり運動推進全国大会～

広島大会 オリエンテーリング大会を開催!

秋晴れの10月22日、「さわやかな 汗をかく顔 いい笑顔」の大会テーマのもとに、第37回健康・体力づくり運動推進全国大会広島大会が開催され、OLをはじめとする27種目の実践大会が県立総合体育館(グリーンアリーナ)を中心に市内の各施設で実施されました。

競技に先立って行われたオープニング・セレモニーでは、各種目の全参加者代表としてトリム小・中学生組に参加してくれた幟町小学校4年生の仲良し5人組が元気よく決意表明をし、OLのアピールに役かってくれました。

この大会は本年6月7日に大会実行委員会の設立総会が開かれて、OLの実施が正式に決定した訳ですが、会場を広島市内という

ことと、トリム主体の大会にという主催者側の意向もあって場所を「広島城・中央公園」に決め、今年度の県大会を兼ねて実施されました。OL普及には絶好の機会であるとの考えから、クラブとしても主管である県OL協会に全面協力、新しい地図「広島城・中央公園」作成のための調査・作図の他、事前の準備や大会当日の運営にあたりました。ところで、当日の参加者数は役員オープン参加も含めて196名。これは通常の県大会に比べれば確かに多い数字ではありますが、作成配布した要綱の枚数や、県教委から県内の全市町村にチラシやプログラムが配られたことを考えると決して満足のいく数字ではないと思います。しかし、参加された人達からは「楽しかった」という声が聞かれ、なかでも初め

てOLを体験した子供達のなかには、「オリエンテーリングは面白い。またやってみよう」という子もいたことは嬉しい限りです。こういった人達の参加が今回限りということにならないためには、誰でも参加しやすい大会を開くなど、われわれに与えられた課題も多いのではないのでしょうか。折角、新しい地図もできたので初心者教室も含め、できれば毎年定期的に大会を開くなど大いに活用したいものです。

参加された方も、運営にあられた方もご苦労さまでした。

＝広島OLC 機関紙『みくまり』 No.116
平成7年 10・11月(合併号)より



＝編集部日誌＝

◆11月3・4・5日：この3連休は全て出勤。特に4日は夜10時頃までかかる。体調もあまり良くない。◆8日：午後タイムオフを取って旅券の申請へ。暮れには中国大会の取材をと考えている。ちょうど11月から有効期限「10年」の申請ができる。10人に9人までがそちらの受付窓口に並んでいる。そう言えば、来年の航空券売上げ予測は、20パーセント近い伸びが予測されている。◆11・12日：発行日(第三種郵便の定期刊行物扱いとなるため、表紙面に毎月一定の日を記載しなければならない)を過ぎてようやく11月号の作業にかかる。今月は桐田氏のページが少ないため、PCレポートでページ数をかせぐ。それにしても、頭にもってくる目玉となるような記事が少ない。私がかねがね唱えているように、一応日本のオリエンテーリングの推進母体であるべきJOAが、

今年は大変な年でした。来年は明るい良い年でありますようにお祈りいたします。

自分たちが何をしているのか、何をしようとしているのか、(あるいは何もしていないのか)、をもっと世間一般に公報すべきであろうと思うし、それには狭いながらもわれわれの世界の情報メディアとして細々ながら生き続けている本誌を利用しない手はないであろう。いよいよには、1983年に発行して以来数えて150号となる。本誌もこれを転機として今後のことを考えて見たいと思う。◆18・19日：11月号の作業の続き。フィニッシュまでには至らず。◆22日：久しぶりの休暇。この朝にやっと仕上がる。昼頃に印刷所へ。その足で8日に申請しておいた旅券受領。そしてその足で分室へ。24日も休み26日までゆったりと過ごす。ただし相変わらず持ち帰りの仕事と発送準備で、今回は家に閉じこもり。◆27～30日：この間残業もせず帰宅。発送を何とか月内に終了。(流人)

O-JAPAN 発行人/田口 昭子

〒234 横浜市港南区日野南7-9-5

TEL.045-891-7004 FAX.045-891-2500

分室=Annex TEL.0287-77-1977

NIFTY-Serve ID VYE01053

郵便振替口座：(番号)00270-9-46870 (加入者名)O-JAPAN 編集部

銀行口座：さくら銀行・港南台支店(普通預金)番号・5380802 O-JAPAN編集部 代表者・田口 肇

購読料

：'95.10月～'96.3月

：'96.1月～'97.3月

：(高校生以下)96年度分

1部あたり頒布価格

¥1,800

¥4,500

¥2,400

¥300

編集責任者/田口 肇

Chief Editor:

Hajime Taguchi

Editorial Address:

7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku

Yokohama, 233 Japan

E-mail Address: hataguc@ibm.net